

桜の友

第42号

共立女子第二高等学校同窓会
八王子市元八王子町1-710
Tel 042(661)9952

会長のご挨拶

小室 洋子

昨夏の全国的な猛暑や今冬の寒波による大雪等、異常気象により私たちの生活が儘ならぬことも多いようですが、会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年度末で在職四十三年、そして九年間校長を務めて来られた晴山先生が定年退職なさいました。生物のご担当、テニス部の顧問をされ、時には厳しくも熱心なご指導が印象深い先生でした。本当に長い間母校のため尽力していただきありがとうございます。卒業生を代表してお礼申し上げます。

ところで、私事ですが、昨秋高校一回生の古希とお世話いただいた先生方のご長寿を祝う会

を催しました。百四名の同期のうち三分の一ほどが集まり、先生方や友人たちとの懐かしくも楽しい会話が弾み、我を忘れて燥ぐ姿はまさに女子高生でした。近年同窓会に参加するのを躊躇したり敬遠したりする方が多いそうです。誰しも苦しい思いはあると思いますが、多感な時期を共に過ごした仲間との再会はそのさえも忘れさせてくれるのではないのでしょうか。来年初、四年に一度の同窓会総会懇親会を開催予定です。これに併せてクラス会等の計画を立てるのもよいかと思えます。同窓会の開催支援をぜひご活用ください。

最後に、能登半島地震被災地支援として白亜祭で募金していただき、日本赤十字社に送金しましたことをご報告致します。

それではどうぞ皆様、お身体を大切にお過ごしくださいませ。

感謝の言葉

晴山 誠也

卒業生の皆様、いかがお過ごしですか。日頃は母校の発展のため、様々なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私はこのたび、九年間の校長職を含め、長年勤めた本校を三月末に定年退職いたしました。在職中、多くの生徒と出会い、共に学び、成長を見守ることができたことは、私の人生にとって何よりの喜びでした。卒業生の皆さんが、それぞれの道で力強く歩んでいることを誇りに思います。

振り返れば、皆さんと過ごした日々の一つひとつが鮮明によみがえります。授業や学校行事、部活動など、皆さんの明るくはじける笑顔に、私自身も沢山の力をいただきました。理科の実験や天文教室、白馬登山等々で感動を共有したことが、今

も皆さんの小さな思い出となっていれば、とてもうれしく思います。

第二の人生を歩むに当たり、今しばらくは身の回りの整理とウエイトダウンに努め、いずれ何らかの形で理科教育に貢献できればと考えています。

月夜峰に聳える白亜の校舎は、いつまでも皆さんを温かく迎えてくれます。いつか懐かしい仲間と共に、訪ねてみて下さい。皆さんの活躍が、これからの在校生たちの大きな励みになります。今後の人生が実り多きものとなるよう、心から願っています。長い間、本当にありがとうございました。



晴山先生最後の授業～高校1年5組生物にて～

（ご報告）

晴山先生、四十三年間の共立第二での教員生活、本当にお疲れ様でした。同窓会より花束の贈呈をさせて頂きました。これから母校を見守っていて下さい。



二〇二五年四月より

新校長 佐藤 聖一
新教頭 田端 豊
参与・進路主任 池田 孝



第五十一回生 成人を祝う会

二〇二五年一月一三日、京王プラザホテル八王子にて、第五十一回生の二十歳を祝う会を開催しました。四十名以上の卒業生と高校時代に大変お世話になった田中先生、榎本先生、谷先生、湊先生、坂田先生の五名の先生方にご出席いただき、久しぶりの再会に感極まる様子が見られました。それぞれが個性豊かな晴れ着姿で集う様子はとても華やかで感動的な景色でした。



会の中では高校の卒業アルバムなどから出題されるクイズや立食パーティーを楽しみました。五十一回生は高校入学時から新型コロナウイルスの影響により修学旅行などの行事がほとんど中止になってしまった学年でしたが、今回の同窓会によって在学中の昼休みには実現しなかった友人たちと会話しながらの食事や高校時代の懐かしい会話を楽しむことが出来ました。また近況報告を友人や先生方と楽しむ様子も見られました。集合写真の撮影時には惜しくも今回参加が叶わなかった仲間とのビデオ通話を楽しむ様子も見られました。

今回は二十歳という大切な節目と新たな門出を祝う会となりました。これまで育ててくれた家族やお世話になった方々へ感

謝をし、校訓の誠実・勤勉・友愛を忘れず、また学年主任の田中先生の高校時代からの教訓である時間・空間・人間の三つの「間」を大切にすることを忘れずに精進して参りたいと思います。同窓会の開催にご協力いただいた先生方や同窓会の皆様、ホテルのスタッフの方々に深く感謝申し上げます。

第五十一回生 中坂夏海

内藤煌莉



第十回生 三年四組クラス会

令和六年三月三十一日、担任の坂内秀三先生が喜寿、そして我々が還暦という節目に十期生三年四組クラス会を開催しました。前日までの肌寒さから一転、晴天に恵まれた気持ちのいい気候、会場は京王プラザホテルの四十二階からはそびえたつ東京都庁と咲き誇る桜の花の絶景、そのすべてが我々の十七年ぶり再会を祝福するかのようでした。

東京近郊に住む人が多い中、遠くは岐阜県からの参加もあり二十一名の懐かしい仲間が集い、卒業から四十二年が過ぎたとは思えないほど、顔を合わせたその瞬間に高校時代に戻り、大いに盛り上がりました。

定年後も教鞭をとり、高尾山ガイド、囲碁業界での坂内先生のご活躍、親の介護や孫の世話に追われる人、子育てが終わわり仕事を始め頑張っている人、「推し活」に勤しみキラキラ輝く人など一人一人が

これまでの歩みを振り返り、それぞれの人生に共感したり、感心したり、元気をもらったり。あつという間の楽しいひとときでした。

今年の秋には、坂内先生の案内での高尾山登山を計画することとなり、それに向けて体を絞る、足腰を鍛えるなどの準備をしての再会を約束しました。

第十回生 松本 弥生
(旧姓 北森)



第一回生同期会 開校当時の思い出

私たち一回生は、元八王子月夜峰の地に建つ一号館に足を踏み入れた初めての高校生として昭和四五年に入學しました。それからなんと五五年、今年、古希を迎えた私たちと先生方の長寿を祝う会として、十一月十九日にホテルエミシア東京立川で記念の同期会を開催しました。

卒業生の三分の一の三五名と竹田先生、中道先生、坂内先生のご出席を頂き、久しぶりの旧友との歓喜の再会に当時の写真の映像を見ながら賑やかに始まりました。



荒涼たる赤土の上にただ一つ白亜の校舎だけが建っていた開校当時、一年生と先生十名からのスタートは家族のように親しげであり、当時未だ高校紛争の余燼が残っていた中、新天地で無から生徒会も白亜祭も作っていった三年間は皆それぞれにとって特別な青春でした。

先生方のスピーチでは、今だから話せる当時の裏話も披露され、私たちも同様のシアとなつて一層距離が縮まったようでした。

また全員の、今夢中になつていふこと、推し活を披露しての自己紹介をしました。歳を忘れるほど生き生きと楽しそうに、子や孫世代に負けぬよう体力をつけてシア世代を謳歌する様子に元気を頂きました。

後日、体調の具合で出席のかなわ



第一回生 高橋三知子

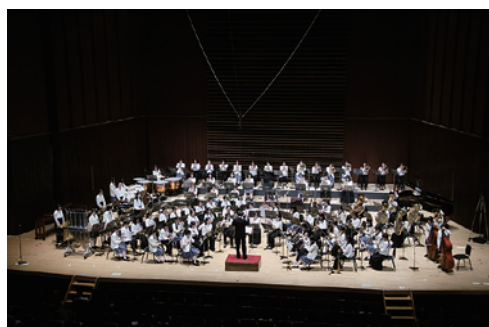
なかった古谷先生宅へ会のご報告に伺いました。先生も一回生のことは特別であったことなど楽しそうにお話をされ、嬉しくお聞きしました。

女性が働き続けることの理解とサポートの少なかった時代、大学卒業後、四三年もの間母校で教壇に立たれた私たちのリーダー小室（多賀）さんに敬意を表しながら、この先も共立女子第二高等学校がますます発展されるように願っております。

吹奏楽部 創部四十周年記念 OG同窓会

二〇二四年六月二十三日、J

COMホール八王子にて開催された「共立女子第二中学校高等学校吹奏楽部創部四十周年記念第三十八回定期演奏会」後に八王子子エルシイにて同窓会を開催しました。創部当初の第十四回生から第四十五回生までの卒業生が参加しました。また、初代指揮者の小弥芳紀先生をはじめ顧問の先生方やコーチの方々にもご臨席いただきました。



久しぶりに再会した卒業生も多く、近況報告をしたり、現役時代の定期演奏会のアルバムを見ながら思い出話に花を咲かせたりしました。また、夏合宿でのBBQや花火、肝試しなど異なる世代間でも共通の話題があり、交流を深めることができました。

昭和・平成・令和と幅広い世代の卒業生が参加したことで、改めて共立女子第二中学校高等学校吹奏楽部の歴史とそれを支えてくださっている方々の存在を感じることができました。

小弥先生のご挨拶の中で「現役部員と卒業生との合同演奏は

第三十回定期演奏会以来二回目。まさか二回目があるとは思わなかった。今回は様々な事情で参加できなかった卒業生も多かったけれど、またこういった機会があつた際にはここにいらっしゃる皆さんが声を掛け合つて、もっとたくさんのメンバーが集まるといいなあと思います。」とおっしゃっていたことがとても印象に残っています。これから共立女子第二中学校高等学校吹奏楽部の益々の発展を願うとともに、卒業生の輪を広げていきたいらと思います。

第三十四回生 小川麻里子
第三十八回生 若松美里

陸上競技部 二〇二四年 OG会

五輪年（オリンピックイヤー）には恒例実施していたOG会を、八年ぶりに七月六日に開催。今回は、六回生から四十五回生までの三十五名が母校のランチルームに集まり、親睦を深めました。

種目別に着席し、部活中に水分を取れなかった過酷な現役時代を振り返ったり、歴代記録を称えあったり、初対面の先輩後輩でもすぐに意気投合。温かく和やかな二時間でした。



晴山校長のサプライズ登場に、歓喜の声が上がった一幕もありました。

石川敬逸先生がすべてのテーブルを回り、OGそれぞれが制限時間内に先生へ近況報告をしました。石川先生の変わらないお姿から、OG一同、元気をいただきました。石川先生にはあらためて感謝申し上げます。

十二回生 上原様からの代表挨拶では、石川先生のご指導が



い、また、私たちOGへの愛情を伺うことができて感動。世代を越えたグループLINEも作

どの世代にも受け継がれていることを実感しました。人生いろいろありますが、グラウンドの風が我々を癒し、先生と陸上仲間が心の支えとなっているのです。

会の最後には、石川先生からの「陸上競技」についての熱い思



り、名残惜しくも閉会。

七月の蒸し暑い日でしたが、希望者はそのままグラウンドでジョグ。石川先生が見守る中、スコールに降られても、女子高生に戻って楽しんでいらっしやる様子でした。

次回は、四年後を待たずに、石川監督の率いる「黙古寿（もっこす）」チームとして八王子駅伝で集合する予定です。ただ走るだけではなく、競技としての向き合うことができた仲間の繋がりは宝物です。素敵な時間をありがとうございました。

第十九回生 田中元女

野外研究部 二〇二四年 すすきの会

令和六年六月二十九日、野外研究部卒業生の集い、すすきの会が開かれました。今回は前野外研究部顧問である坂内秀三先生をはじめとする計十六人での開催となりました。まず野外研究部名物である塩漬けした学校のオオシマザクラの葉を使った桜餅作りで親睦を深めました。中々綺麗に形成するのは難しく、試行錯誤を重ねて作り上



げ、とても美味しいものが完成しました。その後、おなかも膨れて食後の運動も兼ねて広大な敷地面積の校内を散策しまし

た。夏を迎えたばかりの頃でしたが、日差しも強く、蚊も出始めていました。しかし、私自身も久々の校内散策で気分が高揚していました。それ以上に懐かしく思われている先輩方の様子が見られました。全員あの頃の野外研究部員に戻ったかのように、自然と触れ合っていました。

今回のすすきの会は夏での開催となりましたが、他の季節での開催も検討しています。来年も幹事としてすすきの会を春夏秋冬様々な自然を満喫できる校内でさらに盛り上げていきたいと思っています。

第五十二回生 増田静香



母校の香り

私が共立生活を振り返って思い出すのは三年ぶりにお客さんを迎えて開催された会場型の白亜祭です。当時白亜祭実行委員長だった私は先生方や役員と何度も話し合いを重ね、三年ぶりに会場型の白亜祭を開催することができました。オープニング・ファイナルパーティーでは歓声禁止などの制限はありましたが、生徒みんなが一体となっ



て盛り上がるあの空気を舞台袖から見た時、白亜祭を取り戻すことができた嬉しさに思わず涙がこぼれてしまいました。通常通りの白亜祭を知っている人が少なく、また私自身も探り探りの状態で実行委員長という立場になった中、迷惑をかけてしまったこともあったかと思いますが、生徒の皆さんや先生方など関わった全員の協力があってからこそ達成できたことだと思っています。これは卒業した今も私の心の中に残っています。



第五十二回生

同窓会副会長 栗澤優奈

第五十四回 白亜祭

令和六年九月十四日、十五日の二日間「#アケセル全快く愛を乗せて」をテーマに掲げた、第五十四回白亜祭が開催されました。今回の白亜祭は、新型コロナウイルス感染症が明けてから二度目の開催となり、沢山の来場者も来られ、賑わいを見せていました。去年導入されたデジタルパンフレットや入場の際に事前のフォーム回答を活用するなど、全体的にデジタル化が進んでいました。受付には、ピンクをモチーフにしたパンフレットと同様にピンクを基調とした装飾が施されていました。



今年から飲食団体の出店が解禁されたので、高校生のクラス企画ではいくつかの団体がそれぞれ異なるコンセプトのカフェを企画していました。またその他にも、去年に引き続きお化け屋敷やアトラクション企画が人気でした。中学生のクラス企画では、中学一年生は八王子についての調べ学習、中学二年生は埼玉・川越についての調べ学習、中学三年生はフォトスポットを中心とした企画など、それぞれ異なる工夫がみられる企画でした。その他にも、各部活団体や高校三年生の有志企画、各

学年の作品展示、焼きそばやワッフルの出店販売などが行われていました。すべての企画が装飾を特にこだわっており、自然をテーマとして緑を基調とした装飾やしだれ桜のような窓ガラスの装飾などがひととき目を引いていました。

今年の白亜祭の受賞団体は、JC賞を中学三年一組「キッキングスナイパー山竹下道り」、JK賞を高校二年三組「ユキリン・フアンタスティック・フライト」、BEST STAR賞を「ふるうつ屋」(高三有志)、GOOD DESIGN賞を高校二年四組「どりんくる!」、ユニフォーム賞を高校二年四組「どりんくる!」、校長賞を高校二年二組「アイ♡マニ」、最後に白亜祭大賞を中学三年一組「キッキングスナイパー山竹下道り」が受賞しました。今回受賞した団体はもちろん、受賞できなかった団体も一丸とな



って白亜祭を盛り上げ、大成功を収めました。我々同窓会も、例年と同様に休憩室を設けさせていただきました。新型コロナウイルス感染症への規制が緩和された中で、様々なことを工夫しながらも無事に開催できたことを同窓会係一同嬉しく思います。

白亜祭実行委員会をはじめ、生徒会役員の方々、先生方やお客様のおかげで、第五十四回の白亜祭も大盛況でした。来年の白亜祭にも、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

第五十二回生

染谷真那
檜本咲花

第五十二回 体育大会

令和六年六月一日、第五十二

回体育大会が開催されました。晴天にも恵まれ、新高校一年、中学一年は入学してから初めての行事であり、高校三年生にとって最後の行事となりました。今年も暑い中での開催でしたが、それにも負けない生徒たちの今までの練習の積み重ねが十分に発揮されました。今年から「台風の日」が新競技として行われました。また、コロナウイ



ルスが流行してから中止されていた「ムカデ競争」も再開され、本来の体育大会が戻ってきたように感じられました。

新競技の「台風の日」は、高校一年の種目で、新しい学年の友達との協力プレイの試されるものとなりました。高校に入学して間もない中、クラスの皆の協力や練習を重ねる一生懸命な姿は、とても素晴らしいものでした。四年ぶりの開催となった「ムカデ競争」も同様、生徒たちは学年の壁を越えて、互いに協力し合っていました。また、時折悔し涙を見せることもあり

ました。それは、生徒たちの努力が伝わる場面でした。

各クラスの応援ダンスでは先輩が選曲から振り付けまでを考え、それを後輩に教えるという代々受け継がれているスタイルをそのままに、今年もクラスそれぞれが個性を生かしたダンスとなりました。流行りの曲などを取り入れているクラスもあり、生徒だけでなく観客の皆様も楽しむ様子も見受けられました。来年は、教えてもらった後輩が先輩として引継ぎにつけていくことになるため、精一杯頑張ります。

体育大会の目玉である高校三年生の輪ダンスは、最後の大きな行事ということもあり、より強い思いが溢れていました。家庭科の授業で制作した法被は様々な工夫が施されており、個性が出ていました。最後の退場の挨拶の際には、皆の清々しい様子が印象的でした。仲間たちと協力し、作り上げた体育大会は、非常に素晴らしいものとなりました。また、輪ダンスのテーマは、「虹」だった為、7色

の法被の輝きも感じられました。

今年は、新型コロナウイルス感染症での制限が解除された体育大会となりました。当たり前と考えていたことが当たり前ではなくなってしまうことから、様々な学びを得ることができました。

第五十二回生 井下陽菜

原島真緒
宮本千伶



特別企画 和装の日

令和六年六月十二日、十九日、高校二年生を対象に「和装（なごみ）の日」が行われました。茶道、華道、装道の基本を一日のうちに体験する和装の日は、グローバルな時代の中で日本の伝統文化を体験できる機会です。二〇一四年度から始まり、今年でちょうど十年目の開催となります。

茶道の講師を務めたのは、本校の第一回生で裏千家茶道準教授の小室洋子先生と第十九回生の茶道部講師の山田純香さんと芦立祐子さん。小学生の頃に体験をしたことがある生徒も一定数いるようでしたが、茶筌でお茶を立てるのは難しいという感想がちらほらと。しかし、「友達が点てたお茶は温かみがあって、とてもおいしかった。」「思いやりの心をもって行動するのを意識した。」という感想も。コロナ禍での茶道の体験は、自分で点てたお茶をいただくもの



でした。自分で点てたお茶をいただくのも貴重な体験ですが、他の友達のためにお茶を点てることは、思いやりを学べる経験でもありますね。

華道の講師を務めたのは、本校の第五回生で小原流師範の高橋めぐみ先生。こちらは茶道とは違い、体験したことのない生徒がほとんどでした。生け込みの基本を教わり、型の通りに生けていきます。最初は不安そうだった表情も真剣なものに変わり、花と向き合っていました。「同じ花でも人それぞれ違う生け方をしている、おもしろかつ

た。」という感想からわかる通り、型がある中でも個性を出すことができたようです。

装道の講師を務めたのは、本校中学の第一回生の坂本直美先生。八王子は織物産業が盛んな街であり、呉服店が多くありますが、そのうちのひとつの坂本呉服店の三代目女将でもあります。最近では着付けの必要がない浴衣もありますが、腰紐を使っている生徒は自分です。着たことがない生徒が大半のようでした。さらに、半幅帯を使い自分で蝶々の形に結びます。苦戦している生徒も多くなりましたが、



終始笑顔があふれていました。「自分で着られるようになったから、夏祭りに着ていきたい。」という感想も多く集まりました。

「大人の女性として日本文化への関心を持つこと」これが、今回の授業の狙いのひとつです。本校を卒業して大人の女性となっていく卒業生の先輩方を講師として招き、日本文化に触れる。この継承の文化も続いていくことを願います。

第五十二回生 佐々木実育

鈴木奏音

宮崎 葵

恩師は語る

シリーズ三十七

英語 内藤和代先生



しいことです。

Q 先生になって一番苦労したことは何ですか？

A 新卒一年目で生徒と歳が近すぎて生徒との関わり方がわからなかったことです。

Q 共立の好きな所は何ですか？

A 自然が豊かで、生徒もののびのびとしているところです。

Q なぜ共立を選んだのですか？

A 長野の教員試験の会場を間違え遅刻し、落ちてしまいました。その後、募集していた私立学校を受け、最初に採用してもらったのが共立第二でした。

Q 生徒と関わるうえで、大事にしていることは何ですか？

A 生徒の考え方を否定しないことです。

Q 英語の魅力は何ですか？

A 世界中の人とコミュニケーションができることです。

Q 五十二回生へメッセージをお願いします。

A 皆さんと過ごした三年間はとても濃くて楽しかったです。ぜひ学校に顔を見せにきてね。

第五十二回生 菅原心結

中西唯友

物理 友廣雅翔先生



Q なぜ先生になろうと思ったのですか？

A 物理が昔からずっと好きで、初めは非常勤講師として教えていたのが始まりです。

Q 五十二回生との一番の思い出は何ですか？

A 白垂祭です。高二修学旅行の帰りの飛行機が五時間遅れてしまい、そのまま空港で東京に帰れるのを待っていたのも懐かしい：（笑）

Q 先生になってよかったことは何ですか？

A 担当した学年・クラスを卒業まで見送り、入学してきた新しい生徒たちを迎え入れるという、人が入れ替わっていく環境のおかげで学べることが多いと感じることです。

Q 五十二回生を一言で表すと何

ですか？

A （意外と）自立しているところ、あとは「スタンドプレー」によるチームワークがあるところです。（「攻殻機動隊SAC」より）

Q 共立の印象や好きなところを教えてください。

A （いい意味で）東京っぽくないところが、田舎育ちからすると落ち着きます（笑）

Q もしも五十二回生を集められるとしたら皆を何をしたいですか？

A コロナ禍で中止になり、行くことができなかった中3の京都・奈良修学旅行に行きたい。Q 生徒と関わる中で学んだことを教えてください。

A 相談をされるとついつい解決策を提案してしまうのですが、「パパ嫌い」が多い五十二回生に「女の子の話は聞いて共感するだけでいいんだよ」ということを教わりました（笑）娘がみんなと同じ年くらいになった時に気を付けたいです：（笑）

第五十二回生 石橋葉奈

栗澤優奈



§教職員人事§

▽三月定年退職職員（敬称略）

晴山 誠也 （理科）

▽三月退職職員（敬称略）

萩原 有紀 （英語）

友廣 雅翔 （理科）

§お知らせ§

▽同期会・クラス会等援助改正

同期会・クラス会等の援助をしておりますが、今年度よりクラブ同窓会にも援助することとします。昨今の経済状況を鑑み援助金も値上げいたします。クラス単位で八千円補助、宛名ラベルの印刷も無料で承ります。クラブ同窓会援助等の詳細も代表者が担当までお問合せ下さい。

（担当 湊・高島）

§お願い§

▽同窓会総会・懇親会予定
来年度は冬季オリンピック年に当たり、総会・懇親会を、母校

において開催する予定です。準備に当たりご意見ご要望等をお寄せいただけますようお願いいたします。

（担当 湊・宮崎）

▽進路指導部より

職場体験（中三対象十一月頃）
「社会人の体験談や生き方講演」
進路指導の一環として、右を引き受けて下さる方を求めています。ご連絡お待ちしています。

（担当 池田進路指導部主任）

▽講師採用事前登録者募集

中学校・高等学校の教員免許をお持ちの方は履歴書を学校長宛にお送りください。状況に応じご連絡差し上げます。

▽白亜祭を応援して下さい！

どの年代の方々にも思い出深い「白亜祭」、後輩たちの活動をボランティアで応援していただけたら幸いです。アイデアをお持ちの方はぜひご連絡ください。お待ちしております。

（担当 石井生徒部主任）

▽住所等変更のお届け

転居先不明で郵便物が戻らないようご協力ください。住所や地番、姓名等変更の際は、会員ご

本人直筆の文書またはファックスで、同窓会宛に会員番号宛名下の五桁の番号、不明の場合は卒業年と担任名を明記の上お知らせ下さい。セキュリティの關係でメールではお受けできません。なお、ご友人からの連絡はご本人に確認致します。また値上げ前の葉書でお知らせいただく際は不足分の切手をお貼り下さるようお願い致します。海外への発送等はお受けできませんので国内のご家族等のご連絡先をお知らせください。

§顧問より§

※能登半島地震被災者応援のために同窓会でできそうなご提案、例えば「白亜祭」にて販売、実演等をお寄せください。

※同窓会へのお問い合わせは左記の学校の代表電話、またはファックスでお願いします。

☎ 042-661-9952

Fax 042-661-9953

※印刷物での会報誌を希望の方はご連絡ください。

（担当 田中・一條）

幹事紹介

《第五十二回生》

副会長 栗澤優奈（二組）
会計 石橋茉奈（二組）
幹事 佐々木実育（二組）

鈴木奏音（二組）
宮崎 葵（一組）
菅原心結（三組）
中西唯友（三組）
内藤暖乃香（三組）
井下陽菜（四組）
原島真緒（四組）
宮本千怜（四組）
檜本咲花（五組）
染谷真那（五組）

《第五十三回生》

副会長 米村帆音子（六組）
会計 岩田桂果（二組）
幹事 金子ひな（一組）

中村亜華里（二組）
土井愛菜（二組）
菅井結月（三組）
西村佳純（三組）
神山仁衣奈（四組）
窪田苺紗（四組）
赤澤七穂（五組）
石原恵結（五組）
落合真帆（五組）



《同窓会顧問教諭》

梶田果歩（六組）
桐本朋佳（六組）
坂本紗世（七組）
岩澤里英（七組）
長谷川綾（七組）
高島千鶴子
湊理香
田中元女
宮崎麻由
一條歩未
森重真央

▽主な学校行事

4月5日（土） 入学式
5月31日（土） 体育大会
7月20日（日）～8月31日（日）
夏期休暇
9月13日（土）14日（日） 白亜祭
9月29日（月）～10月1日（水）
中学2年ブリティッシュヒルズ研修
9月30日（火）～10月3日（金）
中学3年京都奈良修学旅行
9月30日（火）～10月3日（金）
高校2年北九州修学旅行
12月23日（火）～1月9日（金）
冬期休暇
1月22日（木） 高校推薦入試
2月1日・2日・4日 中学入試
2月10日・12日 高校一般入試
3月17日（火） 高校卒業式
3月19日（木）～春期休暇

2024年度 共立女子第二高等学校同窓会 会計報告

2025年3月31日

1.前年度繰越金	(A)	<u><u>4,464,106</u></u> 円
2.収入の部	(B)	
53回生同窓会会費		2,124,000 円
銀行利子		1,863 円
白亜祭		44,000 円
		<u><u>2,169,863</u></u> 円
3.支出の部	(C)	
桜の友印刷費(旧職員分)		47,135 円
// 郵送代		6,016 円
白亜祭		46,661 円
事務用品		19,690 円
義援金		44,000 円
慶弔費		55,500 円
銀行手数料		220 円
同期会・クラス会補助		55,000 円
交通費		31,320 円
		305,542 円
○残高	A+B-C	
	4,464,106+2,169,863-305,542	<u><u>6,328,427</u></u> 円
		次年度への繰越金
○資産		
定期預金		<u><u>1,500,000</u></u> 円
会計		51回生 千葉美里
		52回生 石橋茉奈

2025年度 共立女子第二高等学校同窓会 予算書

2025年4月1日

1.前年度繰越金		<u><u>6,328,427</u></u> 円
2.収入の部		
54回生同窓会会費		<u><u>1,956,000</u></u> 円
3.支出の部		
桜の友印刷費(旧職員分)		50,000 円
// 郵送代		11,000 円
通信費		10,000 円
学校行事支援費		100,000 円
運営費		50,000 円
交通費		50,000 円
事務費		50,000 円
予備費(慶弔費、クラス会・同期会補助)		100,000 円
雑費		10,000 円
		<u><u>431,000</u></u> 円